

雅楽だより

《目次》

- 蘇莫者の秘伝
- 楽琵琶 工房を訪ねて
- 横笛唱歌考 4
- 千年の時を超えて 名古屋
- 文化交流使

- 菌 隆博 1
- 野尻宗之 3
- 芝 祐靖 4
- 長谷義隆 6
- 真鍋尚之 7

- 版画 四天王寺の舞楽 中村裕之 8
- 東日本大震災復興へ向けて 9
- 「平調の越殿楽」を奏でて絆を 伊藤えり 9
- 情報欄 10

第 27 号
発行

2011 (平成 23) 年 10 月
雅楽協議会



蘇莫者の面を付け装をかぶり左手にサルノコシカケの桴を持ち勇壮闊達に舞う菌隆博氏。
唐冠をかぶり、左方の襲装束に太刀をはき笛を吹く谷内信一氏。写真・林陽一

舞が始まると舞人が勢よく走る。舞台から落ちてしまうのではないかとと思わせるほどの走り方である。走り舞でも現代の感覚からすればゆったりしているように感じるのだが蘇莫者の走りは、全く違う。何故なのかわからない。蘇莫者の舞は、菌家の舞として伝えられているとい

う。左舞の中に蘇莫者というとても変わった舞楽がある。まず舞台の高欄の中に聖徳太子（聖徳太子役の笛の奏者）が、頭には唐冠をかぶり、手には龍笛と笏をもち、腰には太刀をはき登場する。舞人と同じ高欄の中で古楽乱声を奏し始める。初めて見たときはとても驚いた。

蘇莫者の秘伝

お話 菌隆博

う。そこで、蘇莫者の舞の唯一の伝承者である菌隆博氏に蘇莫者のお話を伺いした。
（菌隆博氏は、元宮内庁楽部首席楽長で、秦河勝を祖とする天王寺方楽家、菌広茂の三男として1934（昭和9）年、東京で生まれる）

「山ノ神 猿となつて
山を駆け下りる」

：今日はお忙しいところ、時間を取っていただきましてありがとうございます。先日、紀尾井ホールで伶楽舎演奏会での蘇莫者を拝見させていただきました。

蘇莫者の舞を見て、誰もが驚くのは、舞台の奥から手前まで、舞台から落ちてしまうのではないかと思えるほどの勢いで走る舞姿だと思えます。とても不思議に思っていたのですが、なぜあの様に走る舞姿があるのですか。

「あの走る舞姿は、秘伝として伝えられてきたことですが、山ノ神が、山の下で笛の名人が吹いているのを聞いて、誰が吹いている



蘇莫者の秘伝を語る菌隆博氏

のだらうかと思ひ、猿に化けて山を駆け下りていったのです。その時は雨が降っていたので、蓑を着け、山ですから道などありません石がごろごろしているところを、猿に化けた山の神が、石を飛び越えながら走って降りていくのです。その石ころがゴロゴロした所を駆け下りるように舞いなき、これは秘伝ですと伝えられ、教えられました。左手に持つ桴はサルノコシカケです。」

…そうなのですか、あの独特の走る舞姿は、山を駆け下りてくる姿を模したものでしたのですか。

「そうです。そして、雨が降っているのに、裾が濡れてしまうので、袍の裾を当帯に挟んで舞います。」

…裾とは、舞人が袍を背中から床に垂らしているそのことですね。

「舞っているとよく裾が当帯から落ちてしまうのですが、本当は、当帯に挟んだまま舞うのです。当帯に挟んだままですから、舞台上がるときに裾を垂らすのを忘れたのかと思われるかもしれませんが、そうではないのです。当帯に挟んで舞うように伝えられています。」

「ペロを出す 蘇莫者の面」

…蘇莫者の面は、口から舌を出した特徴ある面ですね。『教訓抄』には「行者に見つけられて舌を出した」と書いてありますが、やはりそうなのでしょうか。

「蘇莫者の面は、言われるとおり舌を出しています。そして舌を出しているのは、行者に見つかったあかんべーをして舌を出してい

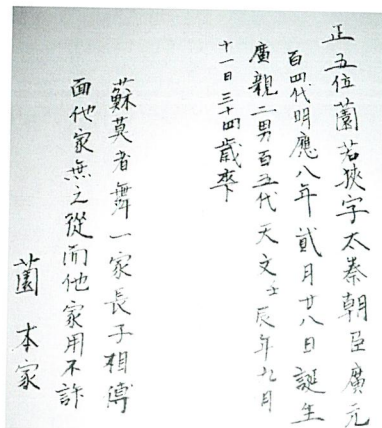
ると書かれています。そうではないのです。山ノ神が猿に化けて山を駆け下りてきたので、息が上がりてハァハァしているの、口を大きく開けて舌を出している顔になっているのです」

…そうなのですか、このお話も初めてお聞きしました。

「面の話では、私の祖父 蘭広元が、宮内庁楽部に蘇莫者の面を寄贈しました。蘭家で使用している面と少し違います。楽部の面の方が舞いやすいですね。蘭家の面は、顔に吸い付くようで、私は鼻が高いので鼻が当たってしまい、息苦しくなります。」

…楽部の蘇莫者の面は、全体が金色というか黄色味を帯びていますが、蘭家の面は、黒っぽいですね。

「そうですね。だいぶ違うのが分かんと思います。また、蘭家の面の箱には、左写真の文字が書かれてあります。」



「正五位蘭若狹守太秦朝臣廣元
百四代明應八年貳月廿八日誕生」

広親 二男百五代天文壬辰年九月
十一日三十四歳卒

蘇莫者舞 一家長子相傳

面他家無之從而家用不許

蘭本家

…箱書きには、蘇莫者の舞は長子が相伝し、この面は、蘭家だけが使用と書かれています。

「左舞なのに 右舞の手振りが」

…それからお聞きしたいのは、蘇莫者の破の曲は、八多良拍子ですね。八多良拍子は、右舞の曲がほとんどですが、左舞では蘇莫者だけが八多良拍子で舞うのですか。

「そうですね、蘇莫者の舞は、左舞ですが右舞の手も入っています。どうしてなのか、分かりませんが、右舞の手も入っているのだから覚えるのもとても難しい舞です。」

最近、この舞を伝えていきたいと強く思っています」

「管絃の蘇莫者は、卒業試験」

「今は、どうしているか分かりませんが、私が楽部にいた頃は、樂生が樂師になるための試験、卒業試験の管絃の曲は、蘇莫者と決まっていた。なぜ卒業試験に蘇莫者を課題曲にしてあるのか、その理由は分かりません。私が樂生の頃から、先生より卒業試験は蘇莫者だからと聞いていました。」

…蘇莫者は、やはり独特な舞と曲で不思議なことの多い舞楽ですね。今日はとても興味深いお話をありがとうございました。

(鈴木治夫)

☆『教訓抄』に書かれる蘇莫者のいわれ

『教訓抄』は鎌倉時代、南都興福寺の樂人伯近真が書き残した樂書で、ここには蘇莫者について「昔、役行者が大峯を下るとき笛を吹くと、山神がめでて舞うと、行者に見つけられて、舌を出したと伝えられている。この峯は蘇莫者の岳と名づけられて今も在るといふ。また聖德太子が河内の龜瀬を通るとき、馬上で尺八を吹くと、愛でて山神が舞ったと云う」と書かれている。

☆八多良拍子（夜多羅拍子・八多羅拍子とも書く）八多良拍子とは、二拍と三拍が交互になる混合拍子で、右舞の還城樂、拔頭、陪臚破に奏される拍子で、左舞では蘇莫者破のみである。管絃で蘇莫者を奏するときは、二拍と四拍が交互になる混合拍子で早只拍子と呼ばれている。

☆舌を出している舞樂面は、蘇莫者の面の他に「安摩二の舞の腫面」もある。

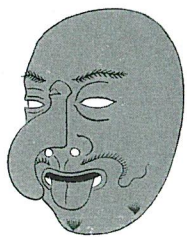
左図・舌を出す
安摩二の舞の腫面

二舞 六面

胡德樂 小面



右図・舌を出す
胡德樂の面
（『舞樂図』より）

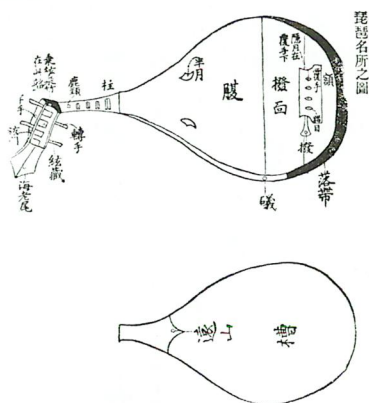


を訪ねて

雅楽の装束や楽器などの製作現場をいろいろと訪ねてきた。今回は、石川県で琵琶を製のしりやうゆき作している野尻宗之氏の工房にお伺いした。

野尻氏が、楽琵琶の製作を手がけるようになったきっかけは笙の演奏を囃（はや）会（かい）で学んでいるうちに、琵琶も演奏したいのだが、琵琶は高価なのでなかなか購入することができない、それでは自作してしまおうと作り始めたのがきっかけという。

お話を聞くと、そもそも野尻氏の本職は精巧な箱物などの製作をする指物師で、木工作業はお手の物、工具などもすべて揃っている。



琵琶の図 『楽家録』



琵琶を製作する野尻宗之氏

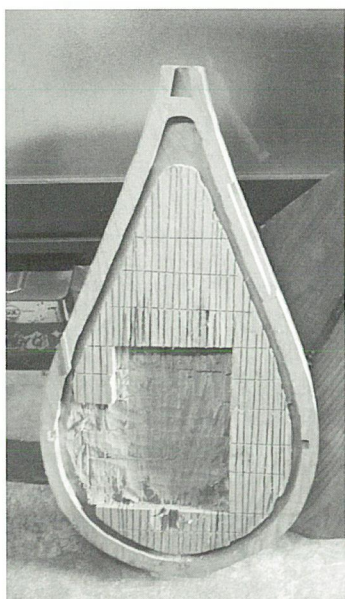
を戴きながらここまで作れるようになりまして」と製作された琵琶を拝見させていただいた。

押して切る、から

引いて切るに

琵琶に使用する木材の種類やその削り方
接合の方法などの話から工具の話となった。

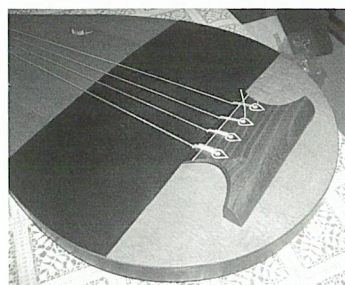
「日本ののこぎりは引いて切りますが、西洋では押して切ります。のこぎりが中国から日本に入ってきたときは押し切りだったようです。引いて切れるようにするためには、刃が良く切れるようにしておかないとだめなのです。カンナも同じなんです。日本のカンナは引いて切りますが、西洋のカンナは押して切るようになっています。日本では研ぐ技術がとても発達しました。カンナものこぎりも良く切れるので、力を入れなくても切ったり削ったりできる引き切りになったのです。そしてこのぎりが発達したから板ができるようになったのです。それまではのこぎりではな



製作途中の琵琶



野尻氏製作の琵琶



くヤリガンナで削っていたので真つすぐな木でないとい細工ができませんでした。ですから杉や檜のように木目が通っている針葉樹が使われていました。」

のこぎり、鉋かんなの話からハンマー、のみななどの使い方やその歴史、砥石の扱い方、研ぎ方の話しまで、そして、野尻氏は「物作りの作業が今アジアなど海外に移されて、日本の職人が伝えてきた技術の伝承が途絶えてしまうのではないか」と危惧されている。

(鈴木治夫)



鮑の数々。
自作の鮑も多数ある。

横笛唱歌考

4

芝祐靖

「平調」「盤渉調」の唱歌音律の「商」と「羽」に、もう一步踏み込んでみますと、そこに、上行音律と下行音律があります。この上行・下行による音程移行については、梁塵秘抄口伝集Ⅱ建久3年（1192）後白河法皇撰Ⅱの巻第十二に、

「五音面鏡 律宮^{（平調）} 徴盤渉調自余可准知之」

「宮音スクナリ、音ノ上下ニヨリテ字ノ上下ニ商音ソルベシ。上ヘソラシテ付、下ヘソラシテ付。兩様移所ノ音ニ随、音ノ上下付所、如宮角音立様ニスク也。ユガムベカラズ。云々」と記され、同時に書かれている墨譜に「羽」音も上下に「ソルベシ」と記されています。

墨譜には横笛の指孔名（丁中夕五^{（平調）}）が記されているので、催馬楽、朗詠などの唱歌法と伴奏楽器（付物）である横笛の奏法を、合わせて指示したものです。

これによって、雅楽音律と日本の古代歌謡音律の違いが認められ、また「商」「羽」の上行、下行により音の移行が、はつきりと示されています。（右下図）

下行音律	上行音律	
宮	宮	1
		12
	嬰羽	11
		10
変羽		9
徴	徴	8
		7
律角	律角	6
		5
	嬰商	4
	商	3
変商		2
宮	宮	1

（注）上行型第三の「商」は「平調」、第四の「嬰羽」は「盤渉調」の場合です。下行型「変商」を私は逆導音と呼んでいます。

これを実際に音に出してみますと後世に言う、陽旋法（上行型）、陰旋法（下行型）が現れます。歌い易いといわれる「平調」と「盤渉調」の唱歌が、日本音律によって唱われていることに加え、この日本音律が古代歌謡音律によって支配されていることがわかります。

次に同じ「均」（主音）を持つ「壹越調」と黄鐘調をみてみましょう。共に唐古律「黄鐘」を均として壹越調は商調で「呂」、黄鐘調は羽調で「律」です。

壹越調

西洋音律	唱歌音律	壹越調々声	唐古律	横笛孔名	箏築孔名	笙合竹
D	壹越	宮	商	六	六	凡
C	神仙	嬰羽	宮	丁	凡	比
H	盤渉	羽	変宮	中	工	一
A	黄鐘	徴	羽	夕	五丁	乞
G	双調	律角	徴	上	上	十
F#	下無	呂角	変徴	五	一	下
F	勝絶			五	一	
E	平調	商	角	干	四	乙
D	壹越	宮	商	六	六	凡

壹越調

「壹越調」における調声と唱歌音律の違いは、唱歌音律に第四音「勝絶」（F#）のあることです。

壹越調の主旋律（箏築・横笛音楽）において、この第四音と第五音「下無」（F#）の使い分けは、丁度西洋音楽の長音階・短音階の決め手となる、長三度・短三度にあたり、壹越調楽曲の変化のポイントです。楽説によると、壹越調は「律兼呂・半呂半律」音楽とされています。たしかに「角音」において律角と呂角が併用されているものの、実際の演奏上では、前述の「下無」と「勝絶」（箏築は一孔、横笛は五孔）の「呂角」と「嬰商」の変化による音律の彩りが強く出され、「呂

黄 鐘 調

笙 合 竹	箏 篳 孔 名	横 笛 孔 名	唐 古 律	黄 鐘 調 々 声	唱 歌 音 律	西 洋 音 律	
乞	丁	夕	羽	宮	黄鐘	A	1
							12
十	上	上	徵	嬰羽	双調	G	11
下	一	五	變徵	羽		F#	10
	一	五			勝絶	F	9
乙	四	下	角	徵	平調	E	8
							7
凡	六	六	商	律角	壹越	D	6
							5
比	凡	丁	宮	嬰商	神仙	C	4
一	工	中	變宮	商	盤渉	H	3
							2
乞	五	夕	羽	宮	黄鐘	A	1

角「律角」併用の「半呂・半律」による音楽的色彩変化は、ほとんど感じられず、無に等しいといえます。

壹越調の横笛唱歌の特徴は、このほか「宮音」の装飾として、「變宮」(上無・C#)が多く使われて、他調にない音型をかもし出しています。

黄鐘調における調声と唱歌音律の差は、第十音「羽」が、第九音「變羽」に歌われている一ヶ所です。もともと唱歌時において装飾的に「羽」(第十音)が歌われる場合も、まれにあります。(左表)

黄鐘調の音階は、「平調」「盤渉調」の上下行音階の混合を想わせるもので、西洋の短音階に類似し(琵琶調絃ACEA||風香調々絃ともいう)、日本人には歌い易い音律です。黄鐘調と、壹越調は唐古律において同じ(主調音)を持つことから、それぞれの調固有の旋律の中に、相手の旋律をうまく生かしています。

(注) 明治選定譜「黄鐘調」の二部(明治21年追加撰定)に、黄鐘調々声と異なつた音律を有する盤渉調曲よりの移調曲が四曲ありますが、この四曲の考察が今回のレポートの主題ですので、第三部で述べることにし、ここでは省略します。

太 食 調

	箏 篳 孔 名	横 笛 孔 名	唐 古 律	太 食 調 々 声	唱 歌 音 律	西 洋 音 律	
乙	四	下	商	宮	平調	E	1
							12
凡	六	六	宮	嬰羽	壹越	D	11
工		丁	變宮	羽		C#	10
	六凡	丁			神仙	C	9
一	工	中	羽	徵	盤渉	H	8
							7
行乞	五丁	夕	徵	律角	黄鐘	A	6
美			變徵	呂角		G#	5
下	上	上			双調	G	4
	一	五	角	商	下無	F#	3
	一	五			勝絶	F	2
乙	四	下	商	宮	平調	E	1

次に、第六番目の調、太食調をみてみましょう。この調は唐古律「太簇均商調」で「呂」といわれています。

左の表では判然としませんが、太食調楽曲を横笛唱歌(カタカナ譜)と唱歌音律からみますと、とても複雑な内容になっています。

太食調固有の旋律の中に、平調音型や盤渉調音型が組み込まれ、また稀に「太簇角調」の終止型を思わせる音型も含まれていて、多彩な音律をかもし出しています。

殊に「合飲塩」「還城楽」「抜頭」などはこの傾向が強く、演奏を聴くと、他調にはみられない華やかさが感じられます。

一つの調声音型にこだわらず、様々な音型を組み合わせて、音楽の進捗と、音の響きに新鮮なものを採り入れた太食調楽曲には雅楽の作曲技法の進歩がうかがえます。

ただし、これら音律の複雑化は、唱歌にも反映し、太食調は他の五調より唱歌法が、難しくなっていることも事実です

(つづく)

(『雅楽界』57号より転載)

千年の時を超えて〜雅楽

名古屋の音楽の伏流

中日新聞放送芸能部編集委員

長谷義隆

名古屋に江戸時代後期から雅楽を「家の芸」としている樂人の家系があることを御存知だろうか。名古屋の中心街、栄にある真宗大谷派の守綱寺。その住職を務める羽塚家である。現住職の尚明さん（80歳）は、詩歌管絃に秀でた雅楽の名手、秋葉院羽塚慈明（1813〜1887年）から数えて四代目にあたる。東本願寺の名古屋楽部と名古屋東照宮の楽部の双方の楽長を兼ね、社寺の儀式や祭礼で奏樂を行っている。

お会いして、驚いた。尚明さんは日本最古の古典音楽の雅楽、舞樂をよくする一方で、西洋のクラシック音楽（ピアノ、バイオリン）も堪能。和洋両道の音楽家であった。四十歳までバイオリン奏者として名古屋放送管弦楽団で演奏していたという。

鐘のような人だった。小さく打てば、小さく鳴り、大きく打てばたつぷりに鳴り響く。「私はあまり詳しくないから、資料をコピーしておいたから、これを読んでもらいたい」。はい、そうですかと引き下がれば、何も鳴らないまま。あれこれ話題を振り、初対面の冷めた空気を温めていくと、名古屋の雅楽の生き字引の面目躍如。インタビュは延々三時間に及び、知られていない興味深いエピソードが続々出てきた。

「日本のラジオ放送が始まった東京・愛宕山（NHK）の開局番組で、名古屋の笙の音が第一号の電波に乗って放送されたのです。東京・日本橋の三越百貨店の開店の時も、屋上で完成祝いがあり、名古屋勢が舞樂をやり

ました。装束を一着忘れたのに気付く、夜行列車で名古屋にとんぼ返りして何とか間に合った。そんな話を父の啓明やおじの羽塚堅子から聞いております」「戦前のことですから、宮内庁の雅楽は民間の催しに出ることは御法度だったのですかね。当時、東京には民間で舞樂ができる集団がなく、そこで名古屋の出番となり、出張公演したようです」

開局・開館番組ともなれば、日本を代表する一流演奏家を網羅するのが常識。これが本当だとすると、名古屋の雅楽が当時、在野では最高峰にあったことをうかがわせ、興味をひかれる。（ただ、手元の資料では裏付けがとれず、小冊子の読者にご教示賜りたい）

羽塚さんの話から、昭和20年代までは東照宮の雅楽の系譜を引く社中が、羽塚家を含め三社中あったことが分かった。由緒ある「恒川家」社中と、雅楽装束、伎楽面、雅楽器などを多数所蔵したとされる「伊藤忠成―伊藤嘉宏」社中である。羽塚家にも伝来の装束、楽器などが多数あったが「戦災ですべて焼けた」という。伊藤家は幸い戦災に遭わず、名古屋独特のデザインを持つ装束のコレクターでもあったという。雅楽装束は一着新調すると二百五十万円はざら、舞樂「青海波」ともなれば、千万円もかかるという。宮内庁の樂人でも貴重な装束は「本番以外には着用できない」という代物だ。その伝来品を多数収集していた雅楽収集家が名古屋にいたとは。この家の消息を知る人がいたら、ぜひ教えてほしい。

さて、恒川氏の名を聞いて名古屋の雅楽、明治の洋楽史に思い当たる人は、超レアな音楽史マニアだろう。

恒川家の歴史は、近世名古屋の雅楽史そのもの。徳川御三家の尾張徳川家は幕府の紅葉山楽所の設置にさきがけて、家康の供養のために名古屋城内の東照宮に樂師を配置した。1631（寛永8）年のことである。延宝年間（1673〜80年）までに十三人の樂人を召し抱えたが、その一人として選ばれたのが恒川氏初代だった。東照宮での儀式、例大祭（名古屋祭）での奏樂、舞樂を舞った。専属の樂人ではなく藩士の中から「樂役」が選ばれたようだ。樂役たちは、京都の樂家に師事し、樂家を招いたり上京したりして稽古を積み、活発な奏樂活動をした。

笙を生業とする京都の樂家「豊原家」の江戸後期の門人録によると、門人571人中、京都の155人に次ぎ、尾張は132人。以下、美濃44人、江戸42人、三河17人、紀伊12人、大坂4人、常陸3人など。尾張の雅楽がいかに盛んだったかが分かる。

余談だが、河村たかし名古屋市長の先祖に、実証的な国学研究に基づき独自の雅楽論を築いた雅楽愛好家の河村益根（尾張藩士）がいる。全国的にもまれなる発展を遂げた尾張名古屋の雅楽界のキーパーソンとして活躍した。

東海地方では江戸時代、雅楽に由来する「楽翁」と号した松平定信をはじめ、藩主が代々雅楽を好んだ桑名藩も盛んだった。藩校では雅楽が必須科目だった。「桑名藩の雅楽家は明治維新後、雅楽が復校した伊勢神宮に出仕したと聞いています」（羽塚さん）といい、恒川家など尾張藩の樂役たちが熱田神宮などの樂人として出仕するのと軌を一にする。

さて、名古屋雅楽界の名家に生まれた恒川家七世、鐙之助は異色の軌跡を描く。明治維新後も、家芸の雅楽を続ける傍ら、洋楽で身を立てた。日本最初の音楽教育機関、音楽取調係（東京芸術大学の前身）に学び、愛知県師範学校、三重県師範学校の音楽教師を歴任。三重時代の1891（明治24）年には、わが国で最初のバイオリン教科書とされる「ヅワイオリン教科書」を著し、バイオリンを学校唱歌の教育に結びつける。明治前期の洋楽文化史に足跡を残すが、その業績は埋もれたまま。忘れられた名古屋人といえよう。

その恒川氏門下から、国産バイオリン第一号を手がけた鈴木政吉が出る。尾張藩の足輕の次男として生まれた政吉は、父の三味線作りを手伝っていたが、父の死後、需要が細っていた和楽器作りに見切りをつけ、長年稽古してきた長唄の素養を生かして音楽教師を目指し、愛知県師範学校にいた恒川鐙之助に師事する。そこで出会ったバイオリンが契機となつて、第一次大戦中の最盛期に年間15万6000本も生産し世界を席巻した「鈴木バイオリン」へと発展していく。政吉の三

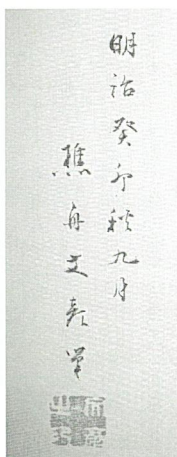


加島樵舟の筆になる
「演主舞楽之図」の全体

「明治癸卯秋九月 樵舟文彦筆」
の落款
(いずれも筆者・長谷氏所蔵)



「演主舞楽之図」の部分拡大図



雅楽の日本化に大きく貢献したとされる。承和(834~48)の大嘗会に「河南浦」(応殿楽)、「拾翠楽」の舞を作った。
筆者蔵の日本画家加島樵舟の筆になる「演主舞楽之図」は「明治癸卯秋九月 樵舟文彦筆」の落款があり、1903(明治36)年に描かれたものと分かる。名古屋は復古大和絵の先駆者、田中訥言を生んだ土地。訥言の流れをくむ浮田一恵斎、渡辺清、森村宜稲らが盛んに舞楽を画題に描いているが、演主を描いたものはまれであり、たまたま目にとまり取得したものである。
コミカルな河南浦は、羽塚啓明氏が1926(昭和元)年に一千年の空白を超えて復元上演。その子息の尚明さん率いる中部日本雅楽連盟がその半世紀後の1979年

に、戦災による資料焼失にも屈せず、復活上演をした希曲だ。

一方、拾翠楽は名古屋東照宮が創建された最初の例大祭で演奏された舞楽である。尾張浜主作の故実にちなむと、推測される。

雅楽は断絶と復興を繰り返して、現代に至る。身近にひきつけてその歴史を眺めると、この地の音楽、芸能の土壌を耕し、今につながる音楽の伏流になったことが、おぼろげながら浮かび上がってくる。

(中部日本放送 創立60周年記念・名古屋開府400年記念 特別公演宮内庁式部職楽部、2011年1月22日のプログラムの原稿を筆者による加筆・修正にて掲載)

文化交流使

ドイツでの活動

真鍋尚之

5月14日に文化交流使としてベルリンに以来8月で3ヶ月となった。

最初のロストックでのソロコンサート以後、ベルリンで弦楽三重奏と笙のために作曲した拙作の初演に向けてのリハーサルやミュンヘン・ニュルンベルクでの演奏会、大使館関係のイベントへの出演、ベルリンでの笙の指導、ケルン雅楽アンサンブルへの実技指導、オランダの音楽大学での作曲家向けレクチャー、ミュンヘン日本祭りへの出演などとても充実した日々を過ごしてきた。特に最初のひと月あまりは生活の基盤を整える準備と重なり多忙を極めた。その後の8月は演奏の

仕事もほとんど無くもっぱら夏休みで9月からの演奏会シーズンに向けて充電期間になった。

日本を離れヨーロッパで演奏・指導・アンサンブルなどを行っていると思議と今まではまた違った視点で自分自身や「日本」というものが見えてくるものである。

ここベルリンには数多くの博物館があり、その中には古代ギリシャやローマ、エジプトやペルシャなどの遺跡や発掘品が多く集められ保存展示されている。そして中国や日本のものも数多く見ることが出来る。中国人の友人は言う、もしここになかったら中国では壊されていただろう。

自国では価値を見出されないものがヨーロッパでは美術品として収集され博物館に100年以上も前から展示されている。これはヨーロッパの文化的価値が高いという意味だけでは終わらない。日常使うものは使ってこそ意味があり自然と壊れていくものでもある。さて、中国笙(シェン)の演奏家に日本の笙を教えている。1300年前には同じ楽器だった「笙」が今や17~37本の管を持つShengと17管のまま15音のみ鳴るShoと全く別の道を歩んだ。Shengは今現在もさらにキーや穴の位置を変えつつ進化し続けている。

それに対して日本は・・・と考えるのはナンセンスである。ある視点から見ると退化や衰退と取れるかも知れない。しかし、これがその日本の進化の形であり今も進化し続けていると私は考える。

中国の笙と韓国の横笛、そして私の出演するコンサートがあった。韓国はとても情熱的で激しく、中国は華麗できらびやかなテクニクを持つ。そして私の演奏した曲は「静」の曲であった。隣の国同士なのにこれほどまでに違う道を歩んでいることにとても興味を覚える。元々は両国を通じて日本に伝わった音楽である。私にはこれらの音楽は表現の形が違っただけでも共感するものがある。

中国人に日本の雅楽を教え、私は彼から中国のテクニクを学ぶ。

版画 四天王寺の舞楽

葛飾八幡宮 神職

中村裕之

ちょうど手のひらに乗るほどの12センチ角の木箱に「四天王寺の舞楽」と墨書された表書き。上蓋を開けると簡易な帙に入った折り本が出てきた。厚さ6ミリの二枚の杉板が表と裏の表紙となっている。表側には同名の表題が貼ってある。十一折の最後には、「昭和丁酉盛夏、自画・自刻・自摺、特別製本七十部限定の内、第参拾九番、印、非買本、著者森本木羊子、刊行所 大阪梅田新道角リーチ」と記す。作者の森本木羊子は、戦後、仏画を中心に精力的に活躍した創作版画家で、この作品は昭和32年の作。天平時代の伎楽を題材にした類似の作品もあるようだ。

箱中には同寸の十頁の「天王寺舞楽略記」、小野拱龍氏の解説書が付いている。折本は見開きで見ると片側に版画があり、もう片側に最大50字程のコメント、曲名だけの時もある。



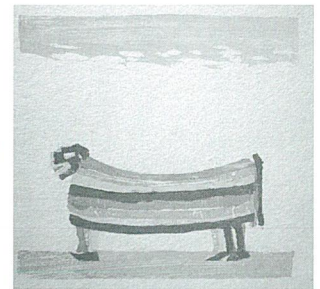
「四天王寺の舞楽」

まず一枚目、絵柄は太太鼓で、二つ巴の鳳凰、右側の小文は、「四天王寺の舞楽は古い伝統のもので大阪の誇りであり日本の誇りでもある、太太鼓 経八尺」とあり、解説書には、左右の区別や全高は地上二十尺に及ぶと付足する。



太太鼓

二枚目は獅子、三枚目は菩薩。「獅子と菩薩は行道だけで伎楽の名残が偲ばれる」解説書には、「・・・舞台上上がって大輪小輪を踏み楽舎では獅子の秘曲、菩薩の曲を奏し、奈良朝の大法会をほうふつたらしめるものがある・・・」



獅子

四は舞台の遠景で「四天王寺の石舞台は住吉宮島と共に日本三石舞台として世に知られる」舞台上では萬歳楽。

五は延喜楽、「振鈴と延喜楽は片肩ぬきで舞はれ承和楽は両肩ぬきで舞ふ」

六と七は迦陵頻と胡蝶、「迦陵頻と胡蝶は童舞で山吹の枝を持つて舞ふ胡蝶は可憐にも美しい」



迦陵頻



胡蝶

八は蘭陵王「蘭陵王は法楽に舞はれるのでよく知られてゐる」法楽の舞楽とは蘭陵王に限らず仏会供養のあとに舞われる供養の舞をいう。



蘭陵王

九は太平楽「太平楽は日暮時に舞われるしきたりで序破急の三部が舞われ急の曲で剣を抜くの合図に簀に火がはいる」急の中頃、舞人太刀を抜くを合図に堂内中央に安置された太子楊枝の御影を巻いて宝庫に納めその由を昔は奉行所に早馬を送って報知したという。



太平楽

十は還城楽「還城楽は北方の蠻人が蛇を獲て喜ぶさまを舞ふと言ひ城に還ると言う名から結の曲となっている」夜多羅拍子にて舞われる走舞の一つでこの拍子は古楽書によると天王寺楽人が作つたといわれる。略々聖霊会が終わった後に行列の還幸の際楽人がこの

曲を演奏して供奉することになっている。

一つ一つの版画の絵柄は、舞の特徴をつかんだ可愛らしくも見え、添えられた小文は要点のみコメントしている。加えて小野撰龍氏の詳細な解説が上手くバランスを整えている。「この版画は天王寺舞楽の持つ壮大にして古雅な風格を巧みにしかも端的に表現され又風俗、風物共にその表現の正確なることは称賛に値するものである。唯作者の説明が聊か簡に過ぎるので鑑賞に不便であろうとの老婆心より解説を附する次第である」

古書あさが好きで、週末はよく神田を散歩する。雅楽関係のものはなかなか見つからないが、ごくたまに目に留まる。これも小さいもので古書の中に埋もれていた。危うく見過ごすところだったが、好きな雅楽に関するものはやっぱり見逃さないものだ。

東日本大震災復興へ向けて

雅楽関係者の取り組み

3月11日、想像を絶する大きな被害に見舞われ、また原発事故による放射能は、長い年月にわたって被害を及ぼすものとなつてしまいました。半年経ちましたが、まだ後片付けも終わらず、時だけが過ぎていきます。

追悼供養、復興支援の雅楽関係者の方々の取り組みを、前号に続き掲載いたします。(このほかにも多くの方が支援に取り組まれていると思います、支援の内容をご連絡ください。支援の輪を広げていきたいと思います。)

○東日本大震災復興支援コンサート

7月20日(水)

ひこね市文化プラザ グランドホール
演奏 東儀秀樹 ほか

主催 一般財団法人ラリーニッポン

○8月7日に京都御所で、京都府内に避難している被災者を招いた特別見学会が開かれ、平安雅楽会が被災者らの前で管絃の演奏を行った。主催は宮内庁京都事務所。京都新聞に写真入で大きく報道された。

○復興支援チャリティーコンサート

8月12日・13日

大崎八幡宮境内(仙台)

越天楽、五常楽急、陪臚、酒胡子、萬代の舞、青葉の舞、芝祐靖作曲一行の賦 他

演奏 伶楽舎、大崎八幡宮職員、地元の雅楽演奏者

*災害復興についてのトークと「まけないぞう」ワークショップを中に挟んで演奏。

○犠牲者への供養と復興祈念の舞楽

被災地・陸前高田市といわき市で

8月28日(日) 陸前高田広田湾付近と慈恩寺

8月29日(月) いわき市修徳院と真福寺

神奈川雅楽部は部員20数名でバスを貸しきり、27日の夜に神奈川を出発して被災地に向かった。被災地に入った28日は陸前高田広田湾付近と慈恩寺で、29日はいわき市修徳院と真福寺で、それぞれ東日本大震災の地震と大津波で犠牲になられた方と

一切の精霊を供養するため、海上に向かい施餓鬼供養とともに犠牲者追悼に盤渉調・越殿楽を演奏し、復興を祈念するため蘭陵王と納曾利を舞った。NHKニュースで放映。



被災地・陸前高田市といわき市で追悼と復興を願って被災者の方々の前で舞楽を奏する神奈川雅楽部

○東日本大震災復興支援コンサート

明日へ支えあおう HIRAZUMI から光を

9月14日(水)

一関文化センター 大ホール

演奏 東儀秀樹、古澤巖、天台声明等

主催 NHK仙台放送局ほか

○復興支援チャリティー雅楽演奏会(東京)

9月18日(日) 午後2時 千円 コール田無

管絃 胡飲酒破ほか 舞楽 迦陵頻

被災地より救援ボランティアの方の「生の声」の報告も。

入場料は全額支援金へ。

主催・演奏 西東京雅楽会

Project Eienaku

「平調の越殿楽」を奏でて絆を、希望を

伊藤えり

震災を機に「毎日夜六時から、祈りを込めて平調の越殿楽二行を演奏しましょう。それが

どれがある場所から・・・」という呼びかけをブログやメールを通して始めました。三月十七日からスタート、すでに五ヶ月が過ぎました(八月末現在)。少しずつながら賛同の輪が広がっています。

私事ながら、今年の5月に、長年住み慣れた東京を離れ、奈良に越してまいりました。「雅楽のふるさと」のような奈良・東大寺、春日大社、薬師寺、唐招提寺のすぐそばです。このような地で、祈りと希望のProjectを続けさせていただくことで、改めて雅楽という芸能が、いかにたくさんの人の熱い想いによって外国からもたらされ神仏の前で演じられてきたか、そして長い年月を生きて延びてきたか、ということに想いを馳せています。

雅楽協議会様から再び原稿掲載のお声がけをいただき、また、「敢えて盤渉調の越殿楽ではなく、平調の越殿楽を」と書いた前回のわたしの文章にご質問もいただいたこととで、ご質問にお答えしながら、今後の展望について書いてみたいと思います。

通常、雅楽の世界では、ご供養やご葬儀に際して付楽、献楽を行う場合、仏教、神道を問わず、盤渉調から曲が選ばれます。そのような意味合いから、震災直後に開始したProject Eienakuでの奏楽の呼びかけで、「平調」を選んだことを不思議に思われたかたもいらしたようです。「平調」の越殿楽は、婚礼の式典で奏されることも多いため、「おめでたい曲」というイメージもあるようですが、これは近年に作られたイメージです。また、わたしがProjectを通して始めたか

ったことは、災害で亡くなられた方々への「追悼」ではなく（正確には、「追悼の祈り」も込めつつ）、「希望と未来を導くこと」でした。

Project Etenaku には、越殿楽を同じ時間に奏することで、離れていても「ひとりではない、無力ではない」と感じられるようになること、辛いときにも楽器を奏で、集中することで、無用な不安感を追い払えること、日本の「今」を生きていることをしっかりと感じることで、過去の困難な歴史を乗り越えてきた先人たちの歩みの「確かさ」を思い出すこと、そしてそれを今の世から後世へと伝えていくことの「重み」を感じること、などを期待して、続けています。小さなことから、特に3月4月中は、不安を払拭するのに効果が大きかったようです。

今後、新たに Project を展開していくことも考えています。定期的に（毎月、十一日前後などに）合奏やご奉納のための奏楽、献楽などを行っていくことなども検討中です。とてもありがたいことに、わたし自身が予想していた以上に多くのかたが見守っていてくださるようですので、ご協力を仰ぎながら、日本各地で合奏会などを行ったり、被災地に生演奏をお届けに伺ったり、またその様子を Youtube に載せたりすることで、お互いにエールを送り合えるのでは・・・と夢を膨らませています。

奈良時代にも平安時代にも大きな天災が日本を襲っていますが、当時はインターネットも原発もありませんでした。平成の世を襲っ

た今回の震災と原発の事故は、平成の人間にしかできないやり方で乗り切っていくしかありません。ネットなどを通じて、日本全国の雅楽愛好家に呼びかけを行いながら、絆を作っていきたいと思っています。

プロジェクト詳細は、

<http://sho3ku.cocolog-nifty.com/blog/projectetenaku.html>

前号に掲載できなかった 演奏会など

○天理大学雅楽公演

9月8日 オランダ・アムステルダム音楽院

10日 ドイツ・ケルン大学

12日 フランス・パリ

14日 ドイツ・ミュンヘン

16日 イギリス・ロンドン大学

演奏曲目 伎楽 迦陵羅 舞楽 太平楽 納曾利 他

○国立劇場開場45周年記念

十牛図と秋庭歌一具（東京）

9月10日（土）午後4時半

出演 浄土宗縁山流声明 増上寺式師会

真言宗豊山派 迦陵頻伽声明研究会

日蓮宗声明 研声会

打ち物 増上寺式師会 出演 伶楽舎

秋・冬までの主な雅楽演奏会など

「室町時代の舞楽装束」月例講演会（東京）

10月1日（土）午後1時半

無料（ただし、当日の入館料は必要）

東京国立博物館 平成館大講堂

問合せ Tel 03-5777-8600

女人舞楽 自主公演（京都）

10月1日（土）午後2時

京都府立府民ホール「アルティ」 全席自由

前売3000円 当日3500円

舞楽 迦陵羅 埴破 胡飲酒 萬歳楽

柳花苑 還城楽

出演 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

「申楽の源流」伎楽について（東京）

10月5日（水）午後4時30分 国立能楽堂

お話し 芝祐靖（伶楽舎音楽監督）

申込は締め切っている

時を繋ぐ千年の響き

平安雅楽の調べ（名古屋）

10月5日（水）午後6時30分開演

為三郎記念館 3000円

管絃 平調音取 更衣 越殿楽残楽三返

舞楽 還城楽（右）長慶子 演奏 主韻会

問合せ Tel 052-763-1991

総本山知恩院 法然上人800年大遠忌

10月6日（木）知恩院（京都）

舞楽 胡蝶 演奏 平安雅楽会

洋遊会150年記念公演（富山）

10月8日（土）2時 2000円

高岡市ふくおか総合文化センター

舞楽 萬歳楽 抜頭 管絃 越天楽 他

出演 洋遊会 客演 安齋省吾氏、多忠輝氏

今宮神社 秋の大祭（京都）

10月8日（土）午後7時 宵宮祭 御神楽

9日（日）午前10時 東遊

演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 075-491-0082

沙沙貴神社 近江源氏祭（滋賀）

10月9日（日）午前10時30分

舞楽 蘭陵王

出演 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

下鴨神社 大國祭（京都）

10月9日（日）午後2時

舞楽 賀殿ほか

演奏 平安雅楽会

西宮神社 観月祭（兵庫）

10月9日（日）午後6時

舞楽 柳花苑 他1曲

出演 女人舞楽原笙会

問合せ Tel 0797-23-1886

乃木神社 管絃祭（東京）

10月13日（木）午後6時祭典後 無料

管絃 黄鐘調 海青楽、越殿楽

舞楽 青海波 八仙

演奏 雅楽道友会

問合せ Tel 03-3478-3001

観月祭 國學院大学 神殿前（東京）

10月15日（土）午後5時 無料

舞楽 振鈴 萬歳楽 他

演奏 青葉雅楽会

問合せ Tel 090-8481-0867

厳島神社 菊花祭（広島）

10月15日（土）夕方より、菊花祭祭典に引き

続き舞楽 振鈴三節 萬歳楽 延喜楽 一曲

蘇利古 散手 貴徳 蘭陵王 納曾利

長慶子

問合せ Tel 0829-44-2020

齋宮行列 嵐山野々宮神社ほか(京都)

10月16日(日) 午前10時半

舞楽 曲目未定

演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 075-871-1972

日光東照宮 東遊(栃木)

10月17日(月) 正午より

例大祭御旅所祭にて東遊

問合せ Tel 0288-54-0560

宮内庁楽部 秋季雅楽演奏会(東京)

10月21日(金)、22日(土)、23日(日)

各日、午前10時30分、午後2時30分

皇居 宮内庁式部職業部

管絃 黄鐘調音取 喜春楽 拾翠楽

舞楽 裏頭楽 長保楽

申込は締め切っている

問合せ Tel 03-3213-1111

四天王寺 経供養舞楽(大阪)

10月22日(土) 午後2時 太子殿西庭

舞楽 振鈴 万歳楽 大行道 仁和楽 採桑

老 長慶子

演奏 雅亮会

問合せ Tel 06-6641-0084

三翁神社(厳島神社の近く) 祭典(広島)

10月23日(日) 午前10時より祭典中に

振鈴 萬歳楽 延喜楽(予定)

問合せ Tel 0829-44-2020

天理大学雅楽部第43回天理公演(奈良)

10月25日(火) 午後6時半

天理市民会館 前売1000円

伎楽 太孤父・太孤児

管絃 盤渉調 竹林楽、蘇莫者破

謡物 飛鳥井

舞楽 右方 延喜楽 左方 散手

問合せ Tel 0743-63-4945

なお、大阪公演・3月10日(土) 大阪国際交

流センター、東京公演・3月18日(日) 浅草

公会堂。詳細は次号に掲載。

明治神宮 舞楽(東京)

10月30日(日) 午前11時

舞楽 裏頭楽 長保楽 長慶子

出演 楽友会

問合せ Tel 03-3379-5511

雅楽翠篁会 第9回雅楽演奏会(奈良)

チケットプレゼント有り

10月30日(日) 午後1時

なら100年会館 大ホール

前売3000円 学生2000円

舞楽 振鈴三節 輪台 青海波 八仙

胡飲酒 還城楽 打球楽 白浜

問合せ Tel 0743-64-5458

古典の日(京都)

10月30日(日) 午後2時

京都アスニーホール

管絃 越天楽ほか

舞楽 賀殿 登天楽

演奏 平安雅楽会

問合せ Tel 075-812-7222

春日大社 文化の日舞楽演奏会(奈良)

11月3日(木) 午前10時祭典にて

舞楽 蘭陵王 午後1時30分 神苑内

管絃 老越調音取 新羅陵王 胡飲酒破

舞楽 甘州 陪臚 長慶子

問合せ Tel 0742-22-7788

函館楽所第4回演奏会(北海道)

11月8日(火) 午後7時 無料

函館芸術ホール

管絃 太食調 傾盂楽 ほか

舞楽 抜頭

問合せ Tel 0138-41-5467

第15回神奈川雅楽部演奏会(神奈川)

チケットプレゼント有り

11月9日(水) 午後7時 1500円

かなつくホール

管絃 平調音取 皇鸞急 甘州

聲明と雅楽 理趣経・裏頭楽

舞楽 還城楽(左) 長保楽 長慶子

問合せ Tel 045-931-1714

久米舞 檀原神宮(奈良)

11月23日(水) 午前11時

久米舞 祭典の中で

問合せ Tel 0744-22-3271

桑名 六華苑 秋の舞楽会(三重)

11月26日(土)、27日(日) 午前10時、午後1時

六華苑 入苑料300円

舞楽 未定

主催 多度雅楽会

問合せ Tel 0594-48-3484

東洋大学文学部伝統文化講座(東京)

舞は駿河舞 弾くものは琵琶

11月26日(土) 午後2時40分

井上円了ホール

解説 石田百合子 演奏 石川高、中村かほ

る、中村仁美、八木千晴、鈴木絵理

問合せ Tel 03-3945-7367

音輪会 第12回雅楽演奏会(京都)

天空の楽人たちが舞い奏でる

チケットプレゼント有り

11月26日(土) 午後5時半

応募方法は次ページ

京都コンサートホール小ホール

前売3000円、当日3500円

第一部 管絃 盤渉調音取 輪臺

第二部 降雨(催馬楽) 越殿楽(残楽二返)

第三部 舞楽 アラカルト(芝 祐靖)

舞楽 鳥歌萬歳楽 蘇利古 長慶子

問合せ Tel 077-572-2013

栃木県青年神職むすび会50周年記念

11月29日(火) 午後2時、6時半 2回公演

2000円 全自由席

栃木県総合文化センターサブホール

管絃 平調 越殿楽 陪臚 朗詠 嘉辰

舞楽 胡飲酒 納曾利

演奏 雅楽道友会

主催 栃木県青年神職むすび会

問合せ Tel 028-621-0248

天王寺楽所 雅亮会第45回雅楽公演会(八坂神社 竹口)

12月2日(金) 午後6時半

一般指定席 4000円

学生指定席 2000円

梅田芸術劇場メインホール(大阪)

管絃 老越調音取 武徳楽 蘭陵王

舞楽 振鈴 桃李花 納曾利 賀殿 長慶子

主催 天王寺楽所 雅亮会、朝日新聞社

問合せ Tel 06-6641-0084

第48回佼成雅楽会公演(東京)

12月4日(日) 午後1時 無料

立正佼成会法輪閣大ホール

管絃 老越調音取、入破、賀殿急 胡飲酒破

舞楽 散手 陪臚

問合せ Tel 03-5341-1148

鶴岡八幡宮 人長舞(神奈川)

12月16日(金) 午後5時半

御鎮座記念祭にて御神楽 人長舞
問合せ Tel 0467-22-0315

春日大社 若宮おん祭 お旅所祭(奈良)
12月17日(土) 夕方より

舞楽 東遊 振鈴 萬歳楽 延喜楽 賀殿
長保楽 和舞 蘭陵王 納曾利 散手 貴徳
抜頭 落躰 ほか
問合せ Tel 0742-22-7788

厳島神社 天長祭(広島)
12月23日(金) 午前9時の天長祭に続いて

舞楽 振鈴 萬歳楽 延喜楽 蘭陵王
納曾利 長慶子
問合せ Tel 0829-44-2020

★読者チケットプレゼント★

★雅楽翠草会 10月30日

なら1000年会館(奈良) 5名様ご招待
10月15日必着 招待券を送付

☆神奈川雅楽部 11月9日

かなつくホール(神奈川) 10名様ご招待
10月26日必着 招待券を送付

☆音輪会 11月26日

京都コンサートホール 5名様ご招待
11月11日必着 招待券を送付

☆伶楽舎 1月26日

四谷区民ホール(東京) 5名様ご招待
1月11日必着 招待券を送付

応募資格・「雅楽だより」定期購読者

応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、
電話番号など必要事項を記入。

応募先・〒188-0013

東京都西東京市向台町6-12-6鈴木方

「雅楽だより」編集部

キタフニユーイヤークンサート 雅楽(北海道)

1月6日(金) 午後7時

札幌コンサートホール小ホール

一般2000円、小中高生500円

管絃 盤渉調音取 青海波ほか

舞楽 陵王 納曾利 演奏 伶楽舎

*同ホールにて午後2時より小中学生対象の
雅楽体験ワークショップ

伶楽舎雅楽コンサート no.24 (東京)

芝祐靖作品演奏会その2

チケットプレゼント有り

応募方法は上記

1月26日(木) 午後7時 前売2500円

四谷区民ホール

芝祐靖復曲 伎楽より「獅子」、芝祐靖作曲

「二つの面」、「斑鳩の風」、「呼韓邪單于」

問合せ Fax 03-5269-2011

新刊・復刊・展示など

○芝祐靖の音楽 CD2枚同時発売

一千年の雅楽の伝統を継承し、未来への新
しい扉を開く 芝祐靖の遙かなる音楽世界。

☆芝祐靖作曲 古典雅楽様式による雅楽組
曲「呼韓邪單于」 王昭君悲話

VZCG-748 3000円

☆芝祐靖作曲

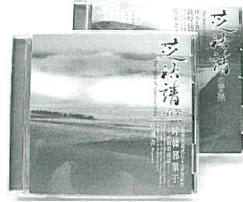
復元正倉院楽器の

ための敦煌琵琶譜

による音楽

VZCG-749

3000円



○室町時代の舞楽装束の展示(東京)

天野社に伝わる舞楽装束などを展示

東京国立博物館

特集陳列「室町時代の舞楽」

(本館9室) 8月9日より10月10日まで

問合せ Tel 03-5777-8600

(ハローダイヤル)

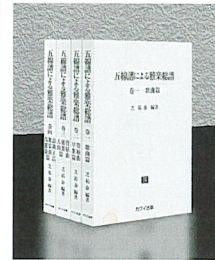
○復刊『五線譜による雅楽総譜』全四巻

芝 祐泰 編著 発行 カワイ出版

巻一、二4200円、巻三、四5250円

問合せ・申込 Tel 03-3374-7595

カワイ出版HP <http://editionkawai.jp>



○宮廷の雅展

有栖川宮家から高松宮家へ

9月23日(金) 11月6日(日)

徳川美術館(名古屋市中区)

有栖川・高松宮家に伝わった絵画、書跡、
調度類や装束を展示し、近世から近現代の

宮廷と宮家の文化と雅を紹介

○DVD『生きた正倉院雅楽』英語版発売

海外公演のギフトにも。

問合せ Tel 03-6240-2252

筆葉用のヨシの購入案内

80円切手2枚を年末までに左記へ送付くだ
さい。購入の要項が送られてきます。

〒569-0011

大阪府高槻市道鶴町4-12-5

鶴殿ヨシ原研究所

問合せ Tel 090-3991-1646

来年の雅楽カレンダー

○「宮中雅楽カレンダー」

発行 (旬)麻布企画 1000円

取扱い、菊葉文化協会ほか

問合せ Tel 03-5222-3531

寄付のお願い

ご協力いただける方、寄付をお願い致しま
す。お振込は、購読料の口座へ、通信欄に
「寄付」とご記入ください。

「雅楽だより」

購読・継続 申し込み方法

購読料一年(4回発行)千五百円(送料込)

郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、

「口座番号」00140-5-614032

「加入者名」雅楽協議会

までお振込みください。ご記入頂いた住所に

「雅楽だより」を送らせて頂きます。数年分

まとめでの振込みも受け付けています。

あとがき

3月11日から半年、未だ後片付けも終らな
い被災地。原発事故による放射能の被害は、
予測がつかない。来年3月11日(日) 被災地
で追悼と復興支援の雅楽演奏を企画。ご協
力いただける方の連絡をお待ちしています。
(ス)

「雅楽だより」第27号

2011(平成23)年10月1日

発行 雅楽協議会

編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当

連絡先 〒188-0013

東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

TEL・042-4511-8898

FAX・042-4511-8897

メール sagakudayori@yahoo.co.jp

<http://www.gagaku-kyougikai.com/>

印刷 秀英堂紙工印刷株式会社

雅楽の楽器・譜面 ほか

(株) 武蔵野楽器

〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6

電話 03-5902-7281

Fax 03-5902-7282